



登米地域の稲作通信 第6号

令和8年7月23日発行

宮城県米づくり推進登米地方本部

宮城県登米農業改良普及センター

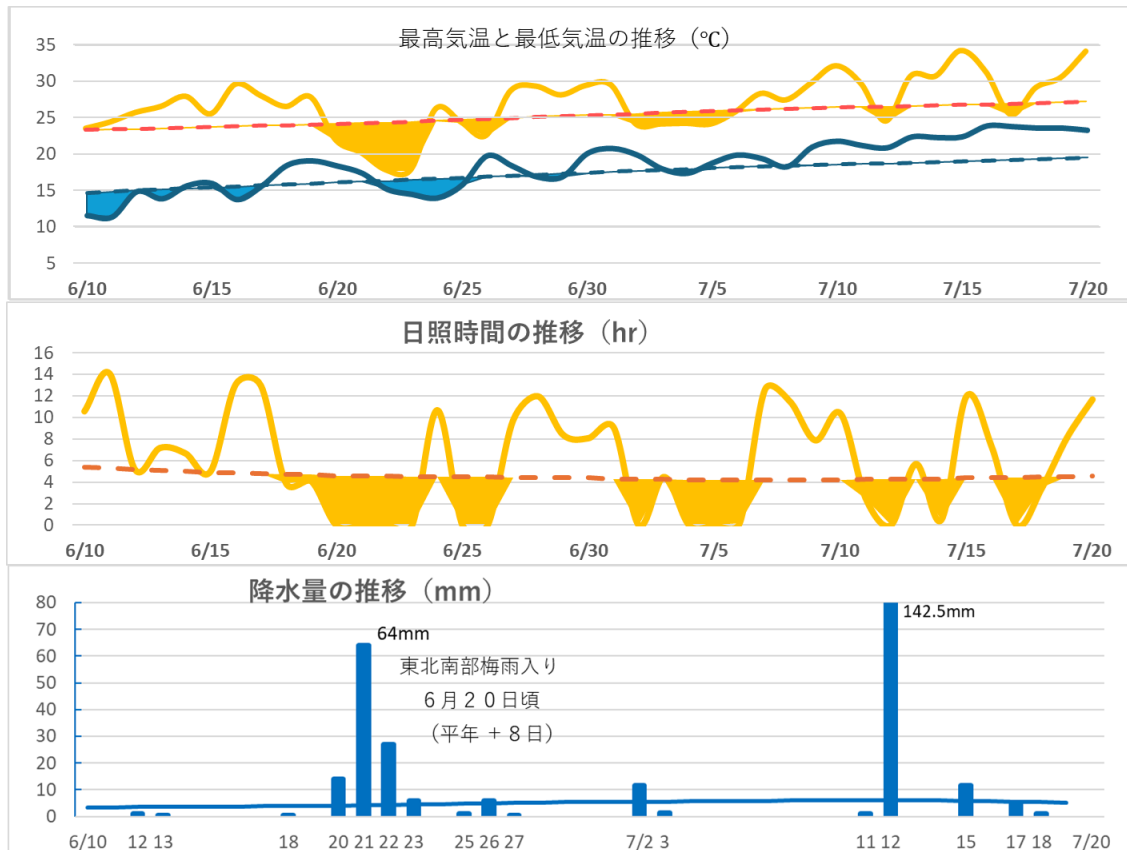
Tel: 0220-22-6127



<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmsgsin-n/>

【気象経過】

観測地点：米山アメダス



7月上～中旬の平均気温は高く推移しています。特に7月中旬は平年に比べて3.3℃高くなっています。日照時間は平年と比べ上旬が89%と少なく、中旬は117%とやや多くなりました。降水量は上旬が平年と比べて33%と少なくなりましたが、下旬では12日に142.5mmの降雨があり、平年と比べ282%になりました。

令和8年7月21日現在、東北南部は梅雨明けしていません。

【気象経過(旬別平年差・比)】

		6月			7月		
		平均気温 (°C)	日照時間 (時間)	降水量 (mm)	平均気温 (°C)	日照時間 (時間)	降水量 (mm)
上旬	本年値	17.9	48.7	56.5	22.2	26.4	13.0
	平年値	16.4	61.5	27.9	21.4	29.7	38.9
	平年差・比	1.5	79%	203%	0.8	89%	33%
中旬	本年値	20.1	72.3	16.0	25.6	51.4	161.0
	平年値	19.0	49.2	36.4	22.3	44.0	57.0
	平年差・比	1.1	147%	44%	3.34	117%	282%
下旬	本年値	19.9	48.9	104.5			
	平年値	19.9	44.8	46.8			
	平年差・比	0.0	109%	223%			

※上旬は1～10日まで、中旬は11～20日まで、下旬は21～31日までの期間。

【移植栽培】

1 生育状況

【水稲生育調査結果(移植)】

No.	品 種	栽培タイプ	調査地点	栽植密度 (株/㎡)		移植日	7月10日					7月21日				
							草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉色 (GM)	葉数 (枚)	幼穂長 (mm)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉色 (GM)	葉数 (枚)	幼穂長 (mm)
1	ひとめぼれ	Cタイプ	中田町	15.9	前年比・差 -4日 +8日	5月17日	55.6 81% 87%	471 90% 92%	39.3 ±0 -1.9	9.1 -0.5 —	0.2 -0.5 -0.6	72.5 99% 97%	447 83% 91%	33.0 -3.8 -4.5	10.5 0.2 —	13.4 9.1 -7.7
2	ササニシキ	Cタイプ (復活サニシキ)	豊里町	15.4	前年比・差 -9日 -2日	5月12日	56.0 91% 93%	407 114% 90%	33.5 1.8 -2.8	10.7 — —	1.2 -2.2 ±0	71.6 106% 100%	429 114% 108%	34.7 6.9 1.3	12.3 — —	62.3 20.2 20.6
3	にじのきらめき	高温対策技術展示ほ	中田町	15.8		5月10日	64.9	586	41.1	10.2	—	76.6	540	35.4	11.5	13.2
4	ひとめぼれ	古川農試 5/11植え	古川農試	18.5	前年比・差 —	5月11日	61.4 91%	662 104%	41.6 4.2	10.2 -0.5	1.3 -1.5	77.5 98%	602 101%	38.5 2.9	11.6 -0.2	32.8 -12.9
5	ひとめぼれ	古川農試 5/20植え	古川農試	18.5	前年比・差 —	5月20日	53.1 82%	630 97%	42.9 3.4	9.5 -1.0	0.2 -0.2	73.5 98%	592 96%	40.0 4.3	10.9 -0.6	4.6 -1.7
6	ひとめぼれ	古川農試 5/29植え	古川農試	18.5	前年比・差 —	5月29日	48.2	575	43.6	9.0	0.0	72.8	577	41.5	10.5	1.2

※栽培タイプ「Cタイプ」：農業・化学肥料節減栽培（慣行栽培の5割減：農業8成分、化学窒素成分3.5kg以下）

※前年値は、過去5か年（令和3年～令和7年）の平均値。「にじのきらめき」は令和8年度から設置したため前年値・前年値なし。

※古川農試5月29日植えは前年値なし。

7月21日現在の生育状況は、管内の生育調査ほのひとめぼれでは草丈が72.5cm（前年並）、茎数447本/㎡（前年に比べてやや少ない）、葉色がやや淡くなっています。幼穂長は13.4mmとなっており、幼穂形成期に達しています。一方、ササニシキでは草丈71.6cm（前年並）、茎数429本/㎡（前年に比べてやや多い）、葉色は前年並みとなっています。幼穂長は62.3mmとなっており、減数分裂期に達しています。

古川農業試験場の作況試験ほのひとめぼれの5月11日植えでは、草丈77.5cm、茎数602本/㎡、葉色38.5、葉数11.6枚と前年並となっています。幼穂長は32.8mmとなっており、減数分裂期に達しています。また、5月20日植えでは、草丈73.5、茎数592本/㎡と前年並となっています。葉色はやや濃く、葉数10.9枚とやや少なくなっています。幼穂長は4.6mmとなっており、幼穂形成期に達しています。

【直播栽培】

【水稲生育調査結果(乾田直播)】 令和8年度から調査地点を豊里町に変更しています。

No.	品 種	栽培タイプ	調査地点	播種月日	調査結果	苗立本数 (本/㎡)	7月10日			7月21日			
							草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉色 (GM)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉色 (GM)	幼穂長 (mm)
1	ササニシキ	ブラ耕 グレートリル体系	豊里町	4月20日	令和8年調査値	145.6	49.5	501	32.5	66.0	557	34.1	—
2	【参考】 ササニシキ	ブラ耕 グレートリル体系	米山町	4月25日	R3～7年の 平均値	79.4	53.3	475	37.4	69.6	451	36.4	3.9

※令和8年度から調査地点を豊里町に変更しています。

※2の【参考】ササニシキ(米山町)は令和3～7年の5か年間の平均値を使用しています。

7月21日現在の生育状況は、草丈66.0cm、茎数557本/㎡、葉色34.1（GM）と順調に生育しています。

2 今後の管理

(1) 生育ステージの予測

アメダスの平均気温を用いた生育ステージの予測です。今年の管内の田植え盛期が5月14日（田植え葉数3.0枚で予測）であったことから、管内の出穂期は8月1日頃（去年は7月31日頃）となる見込みです。

「稲作通信 第5号」に掲載した出穂期の予測日よりも早まっているため注意しましょう。

生育ステージの予測値（7月21日現在）

移植日	5月5日	5月10日	5月15日	5月20日	5月25日
出穂期	7/24～7/27	7/26～7/31	7/30～8/3	8/3～8/8	8/10～8/14

※「DVR予測モデル」を用いた予測値。移植時葉齢を2.5葉～3.5葉として予測。
平均気温は7月21日までの米山アメダスの実測値。

(2) 水管理

出穂前までは間断かん水を基本とします。出穂期間中は浅水管理とし、その後は登熟後期まで根の活力を維持するため、間断かん水や飽水管理を行いましょう。

水分不足は、幼穂の発育や開花受精が妨げられて減収につながるため、必ず入水を行いましょう。

登熟期の水分不足は未熟粒の増加や千粒重の低下など、収量品質に影響します。また、早期落水は心白や腹白などの白未熟粒の発生を増加させます。落水を出穂後30日以降を目標に実施し、整粒歩合を高めましょう。

【高温時の水管理】

出穂期以降の夜温が高いと、光合成で作られた養分を呼吸で消費してしまい、白未熟粒の発生を助長させます。^{ほうすい}飽水管理は登熟期間が高温のとき、地温の上昇抑制に効果的で白未熟粒や胴割粒の発生を抑制できます。

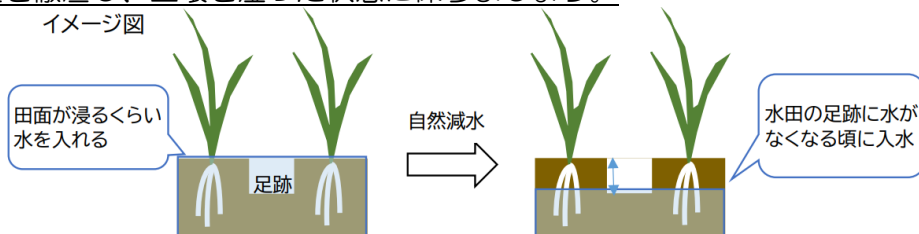
☆^{ほうすい}飽水管理の方法

- ①水尻を閉める。畦畔からの漏水がないか確認する。
- ②田面が浸るくらい（ひたひた）に水を入れる。
- ③水を止めたら、水尻は閉めたまま、自然減水させる。
- ④水田の足跡に水がなくなる頃、または番水のタイミングで次の水を入れる。
（目安は3～5日おき）

※出穂期前後は稲体が最も水を必要とする時期です。

飽水管理を徹底し、土壌を湿った状態に保ちましょう。

イメージ図



(3) 追肥

本年の施肥窒素の減少は平年、前年よりも早くなっています。基肥一発肥料を施肥していても急激に葉色が淡くなってきた場合は、玄米品質を低下させないため減数分裂期追肥を行いましょう。

追肥時期別の施肥量

品種	窒素成分量 (kg/10a)	
	幼穂形成期（出穂25～20日前） ＜幼穂長：1～2mm＞	減数分裂期（出穂15～10日前） ＜幼穂長：30～120mm＞
ひとめぼれ、金のいぶき	1.0	1.0
ササニシキ	—	1.0～1.5
つや姫	2.0	—
だて正夢	—	2.0
つきあかり	1.0～2.0	1.0～2.0

※金のいぶきの場合、穂揃期追肥（窒素成分 1kg/10a）により、登熟後半まで葉色が維持され登熟歩合が向上し収量の増加が期待できます。

（４）病虫害防除

【発生予報第3号】 令和8年6月24日 宮城県病虫害防除所 発表

- ・いもち病（葉いもち） 発生時期「平年並」 発生量「平年並」
- ・稲こうじ病 発生量 「平年並」
- ・紋枯病 発生量 「やや多」
- ・斑点米カメムシ類 発生時期「やや早い」 発生量「平年並」

※ 「発生予報第4号」は7月23日（木）予定

いもち病対策

いもち病の予防剤（箱施用剤、水面施用剤）の効果が低下してくる時期です。現在まで BLASTAM による「アメダス（地点：米山）」による葉いもちの感染好適条件の出現はありませんが、葉色の濃いほ場は上位葉の葉いもちの発生に注意しましょう。また、上位葉での発病は穂いもちの重要な伝染源となります。発病が見られたときには速やかに茎葉散布剤で防除してください（環境保全米 C タイプで発生がみられた場合は JA にご相談ください）。穂いもちは、出穂直後が最も感染しやすいので、適期を逃さないように防除を行いましょう。

紋枯病対策

昨年発生したほ場では、本年も発生することが懸念されます。また、高温多湿が発生に好適のため、注意しましょう。防除時期は出穂直前の穂ばらみ期～出穂期（7月下旬～8月上旬頃）です。いもち病との同時防除が可能な薬剤での対応も可能です。

斑点米カメムシ類の防除

薬剤防除は、穂揃期とその7～10日後の2回が基本です。

直播栽培の出穂期は移植栽培より通常 7～10 日遅くなりますので、防除時期を逃さないよう注意しましょう。

イネツトムシ（イチモンジセセリ）

イネツトムシの葉の食害による減収被害は大きく、防除の対象になるのは8月上旬頃に発生する第2世代幼虫です。防除適期は8月上旬頃に発生する第2世代幼虫です。株当たり 0.5 個以上のツトが見られる場合は防除を行いましょう。

防除適期は若齢幼虫期の短い期間に限られます。若齢幼虫の形成するツトを見逃さないように注意してください。特に、葉色の濃い稲や生育ステージの遅い稲（直播栽培を含む）を好んで産

卵する傾向があるため、該当するほ場は注意してください。



写真 イネツトムシの幼虫
(宮城県病害虫防除所)

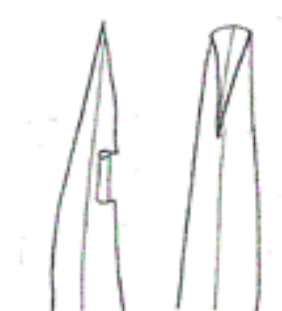


図 若齢幼虫の形成するツト
(宮城県病害虫防除所)

東北地方の向こう1か月の天候の見通し (7/18~8/17)

(令和8年7月16日発表) 仙台管区气象台

暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。

期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、天気は数日の周期で変わるでしょう。

平均気温	低10	並30	高60%	高い見込み
降水量	少30	並40	多30%	ほぼ平年並の見込み
日照時間	少30	並40	多30%	ほぼ平年並の見込み

農薬危害防止運動実施中 (令和8年6月1日から8月31日まで)

農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため
農薬は適正に使用しましょう。

7月から9月は夏の熱中症等声かけ期間です！

「いのちをうばう、夏のひとり作業」
一人ひとりの「大丈夫？」が、命を守ります。
この夏は熱中症による死亡者0を目指しましょう！